
あにまる！

璃乃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あにまる！

【Nコード】

N4598P

【作者名】

璃乃

【あらすじ】

うさぎ族の優那。

うさぎ族は高く飛べたり、運動能力抜群！

でも、覚醒するとうさぎの特徴、耳やしっぽが生えて来ちゃって大変なのだ…。

あにまる！？

1＊ わたしの秘密

「優那…??」

「何やってんのー?」

「未歩っ…。ちょっと待って!!
こっち来ないでえーっ!!!」

間一髪。未歩に見つからないで済んだ。

「何やってたの…って…優那!？」

「ふえ?」

「目赤いよっ!？」

しまった!!未歩に見られてしまった…。

中学校に入って2年間、ずっと隠してきたけど…ここは言うべきみたいだ…。

「あのね…。実はー…。」

私は、この家に代々続いている『うさぎ族』なんです。

見た目は普通の人間なんだけど…覚醒すると耳とかしっぽが出てきたり

目が少し赤くなったりしちゃうんです。

ジャンプ力が優れているのはけっこう便利なんだけどね。

私も9歳までは普通の人間で、そんなこと全く知らなかったのに…。うさぎ族は、10歳の誕生日に覚醒して お母様に全てを聞きました。

お父様は普通の人間。優しくて、強い自慢のお父様です！

他にも、『ねこ族』『へび族』『ねずみ族』がいると聞いたんだけど

まだ会ったことはないですね…。

「ーだいたいこうゆうことです…。

黙っててごめんなさいっ！！」

「…へえ…。うさぎ族…。」

「っ！ー！本当ごめんってば！ー！というか信じてくれる！？」

「信じるよ…。…じゃあ、塾あるから…行くねっ」

「え…。うん…。また明日ね…！」

未歩は走って行ってしまった。なんだか悪いことをしたなあ…。

ー次の日ー

「優那！ーおはよう！ー！」

良かった…。いつも通りだ…。

「おはよう！ー今日は何か寒いねー。」

今日は本当にいつもにまして寒い。水たまりに氷が張っていた。下ばかり見て歩いてたら、誰かにぶつかりそうになってしまった…。顔を上げると

「坂下くんっ」

「ん。優那か。おはよー。」

「おはようっ！どうしたの？今日は遅いんだね。」

「ああ、ちよつと寝過ごしてしまっただけ。」

「坂下くんが！？珍しいねえ。」

「はははっ。」

「何笑ってんのよ！未歩！」

未歩が小声で笑いながら言ってきた。

「優那…。坂下くん好きなんですよ！ばれただよっ。耳でできちゃうんじゃないのぉ？」

「っな…／＼／＼ そんなんじゃないし！！全然！！！」

そんなことを話してるうちに坂下くんは走っていつてしまった…。

好きじゃないなんて言っただけ、本当は入学したときからずっと坂下くんに憧れてたのだ…。

未歩も侮れない子だなあ…。

秘密がたくさんばれてしまった…。

「ゆうーなーっ！おはようー！」

げ。もたもたしてたら慶吾が来てしまった。

よく分からないけれど…2年になったときから私にくっついてくる。周りには、私と慶吾が付き合ってる、なんて勘違いしてる人もたくさんいるから正直迷惑だ…。

「おはよう…。きやっ！あまり近づかないでって言ってるじゃんっ！！」

「いいじゃん、それにさ…。」

「よくないわよっ！何よ！！」

「…俺…へび族なんだよ。昨日聞いちゃったんだけど、お前…うさぎ族だろ…。」

「っ…。」

嘘！聞かれてた！？…というか、へび族なんて…。初めて見た…。

「本当…？」

「ああ。」

「…どしたの？」

「未歩！ごめんごめん！何でもないから！早く行こっ。」

私たちは慶吾を置いて走り出した。へび族なんて怖そうな奴にかまっ
つてられないっ。

遅刻ぎりぎりです授業に間に合った…。

「はあ…。危なかったね。」

「うん。間に合って良かった…。…ねえ、優那。」

「ん？どしたの？」

「私…いや、慶吾くん何て言ってたの？」

「ん…。慶吾ね、へび族なんだって。」

未歩になら言っても大丈夫だろう…。未歩が一番信頼できる親友だから。

「えっ。そうなんだあ。だから優那に近づいてくるんだね。」

「そうかもねえ…。」

未歩とこんな会話をしたくらいで今日一日普通に過ぎていった。

「…帰ろっか。未歩。」

「うん！今日は見たいテレビたくさんあるし！」

外に出ると雪が降っていた。

「わぁ、どおりで今日は寒いと思ったぁ。」

今シーズン初めての雪。見てるとなんだか寂しくなるのは私だけだろうか…。

こんなにも綺麗な雪なのに…。なんだか少し嫌な予感がした。そんなとき、誰かが後ろから私を抱きしめてきた。

「きやあつ！誰！？」

一瞬見えた末歩の顔がとても悲しそうに見えた。

「…！！？」

「俺だよ。」

「慶吾！？」

あれ！？体が動かない…！？声も出ない…！！

「優那…。俺は本気でお前が好きなんだ。俺のこと少しは考えろよ…。」

慶吾なんてずっとふざけているんだろうと思ってた…。

でも…私が好きなのは…！？

慶吾は私にキスをするつもりらしい。体が動かなくて抵抗できない

…！！

「や…やめてよおつ！！！！！」

末歩！？

「優那…。優那には好きな人がいるでしょう！？どうして抵抗しないの！？」

ああ、そっか…。末歩は慶吾が好きだったんだ…。そんなこと全然気付かなかった…。

「違うのっ…。」

声が出る。体も動けるようになった…。

「何が違うのよ…！！！」

説得しようと思步を見た。

「…未歩…！？」

…未歩には猫の耳としっぽ、ひげが生えていた―…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4598p/>

あにまる！

2010年12月12日20時37分発行